

新中計、利益率を向上



「力強いとは言えないが、上を向いている。反転攻勢と言いたいが、そこまで言う自信はまだない」

「我々が品質問題に直面した後、新型コロナウイルスが重なった。品質問題は全社による管理体制に見直しを入りましたか。」

「新中計に込めたメッセージは。」

「コロナ禍の航空需要低迷で、2022年3月期の売上高は390億円と19年3月期実績の約4割だ。25年3月期までの3カ年の新中期経営計画では、航空需要回復を追い風にコロナ禍前の水準に近づけることを目指す。阿部俊之社長に戦略を聞いた。」

ジャムコ社長 阿部 俊之氏

航空需要回復 追い風に

し、安全文化の再構築や方向性は見えてきています。欧米の航空需要は新型コロナウイルス前まで大分回復し、国内の航空会社も業績が回復している。30年までのビジョンの中で、今年からの3年間は体力回復と問題や課題解決にしっかりと取り組む時期で、体力を整える。25年以降が飛躍の期間だ。」

「25年3月期は経常利益57億円が目標で、達成すればコロナ禍前を上回ります。」

「筋肉質、低重心、高効率な経営体制にする。新型コロナウイルスはさまざまな無駄を見直す、

ちよいど良い時期だった。引き続き無駄をなくし、業務効率を上げる活動を継続し、利益率を押し上げる」

「米ボーイングが中型機「787」の納入を再開した効果は。」

「新型コロナウイルス前の業績にいかにも回復させるかの力ギが787だ。航空機が飛び始めればスเปアパーツなど収益貢献の高い部門が伸びるので助かる」

「航空業界の脱炭素にどう貢献しますか。」

「これまででもずっと取り組んでいるが、製品を軽量化できれば航空機の燃費性能が向上

し、間接的に寄与できているが、研究開発を進め、採用範囲まで適用していなかったものを広げたい。もう一つは、認証ハードルはあか試行錯誤している。だが、リサイクルできる炭素繊維強化プラスチック(CFRP)は既したい」

記者の目

既存枠を超える成果を

航空機専業のためコロナ禍の影響を強く受けたが、今後は航空需要回復の追い風にじかに乗れる。需要低迷期の無駄見直しも生きてくる。製品の脱炭素化は軽量化が基本戦略だが、阿部社長が最後に「別の新しい柱や材料を生み出せないか」と付け加えたのが印象的だった。研究開発などで既存の枠組みを超える成果を生み出せるか注目だ。

(戸村智幸)